



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)MM21-54街区プロジェクト	階数	地上19F
建設地	横浜市西区みなとみらい5丁目1番16号 ほか19筆	構造	S造
用途地域	市街化区域、防火地域	平均居住人員	8,449 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,飲食店,工場,等	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2020年2月 竣工	評価の実施日	2020年1月27日
敷地面積	11,491 m ²	作成者	清水建設株式会社
建築面積	6,840 m ²	確認日	2020年1月27日
延床面積	100,928 m ²	確認者	清水建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.1

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: 60%: 80%: 100%: 100%超:

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 設計上の配慮事項		
総合	可能な限り緑地を配し、景観に配慮した。	
その他	-	
Q1 室内環境	内装材はF☆☆☆☆を使用することで配慮している。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	電源設備の浸水による停電を回避する対策を講じた。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	適切な緑地づくりに配慮した。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	屋根・外壁に断熱材を設け、建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上材が容易に分別可能。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	LCCO ₂ 排出量の抑制により地球温暖化への配慮を行った。	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(~)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)MM21-54街区プロジェクト

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

5

省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **45** %削減



一次エネルギー消費量基準

適合

外皮基準

適合

受付日

2017年6月9日

誘導基準

エネルギー対策 (建物外皮の熱負荷抑制 自然エネルギー利用 設備システムの高効率化 効率的運用)

外周に庇を設けることで熱負荷を抑制。ガラスカーテンウォール部の前面にLow-e複層ガラスを採用。

空調機VAV制御による空調搬送動力の逡減(空調)。局所排気システム採用による搬送動力の逡減(換気)。

LED器具採用による消費電力の削減(照明)。

BEMS導入による消費エネルギー等の監視、効率的運用。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

4

室内環境対策 (温熱環境対策 光環境 空気質環境)

ペリメータ、インテリアに空調系統を分け、さらに細かい冷房・暖房のゾーニング計画とする。

1作業単位(1スパン)で照明制御できる計画。CO2監視を中央で行い、維持するための管理マニュアルを整備。

機能性対策 (機能性 知的生産性向上の取組)

建築物移動円滑化誘導基準を満たし、十分に配慮した計画。

専用部以外の諸設備は共用部での維持管理作業を可能とした計画。

室外環境(敷地内)対策 (敷地内温熱環境の向上)

緑被率、中高木の水平投影面積率=49.05%。

地域冷暖房を導入し敷地内歩行者空間等の暑熱環境緩和に配慮。

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防災】

4

耐用性・信頼性 (耐震・免震 部品・部材の耐用年数向上 信頼性)

免震装置の採用。主要内装材を防汚・耐朽性の高いものとし、更新間隔20年程度とする。

空調・給排水配管の主要な用途上位3種のうち2種以上にC以上を採用。

受水槽を二基設置し、水槽をそれぞれ分離し設置。

非常用発電機の設置。浸水対策として電気室を上層階へ設ける計画。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

4

室外環境(敷地内)対策 (生物環境 まちなみ・景観 地域性への配慮)

敷地周辺の風環境に配慮し、風洞実験に基いた植栽配置計画を実施。

みなとみらい地区の景観ガイドラインに沿った適切な計画とし周囲と調和した良好なまちなみ形成に配慮。

グランモールに面した部分に商業店舗を配置し、まちの賑わい創出に寄与。

建物内にだれもが利用できる貫通通路は配置し、内外、表裏の連関した建築計画。

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

BEMS